

個人投資家向け説明会主な質疑応答 (2011年9、10月開催)

Q

円高の影響とその対応策を教えてください。

A 2011年度の業績予想の前提となる為替レートは、1ドル=80円で想定しており、1円円高に振れると年間で5億円程度の営業損益悪化の要因となります。

その対応として、海外からの部品調達を増やしていきます。また、海外のお客様には現地で生産したものを納入するなど、最適地生産を検討していきます。例えば、福島で生産している通信機器のパソリンクは、その一部をインドでつくることを決定しております。

Q

しばらく円高が続くと思いますが、海外売上高比率の目標である2012年度の25%や2017年度の50%を変えないのですか。

A 国内市場は成熟しており、その成長率はそれほど大きくないことが予想されるため、海外事業を拡大しないとNECの成長はないと考えています。今後もこれらの海外売上高比率の目標にこだわり、事業運営を行ってまいります。

Q

2011年度第1四半期の営業損益が194億円の赤字となっておりますが、年間での営業利益計画である900億円の達成は可能ですか。

A 四半期ごとには、どの分野で多く売上をあげたか、開発費をどのように使ったかなどにより、営業損益について、ばらつきがでることがあります。また、NECは、官公庁向けビジネスなどもあり、第1四半期より、第2四半期、上期より下期と、期末に売上高や利益が集中する事業特性となっています。2010年度の年間の営業利益578億円に対し、第4四半期だけで、702億円の営業利益をあげました。11年度については、現時点で会社の計画と比べると、ほぼ想定通りに進捗しています。年間での業績予想の達成に向け、全社一丸となって引き続き努力してまいります。

Q

家庭用蓄電システムは、どのように事業を拡大していくのですか。

A まずは、ハウスメーカーなどパートナー企業に検証していただく目的で納入していきますが、早期に、個人の方が家を新築されるときに、導入を検討いただけるようにしたいと考えております。電気自動車用電池向けの電極などで実績をあげ、量を稼ぐことで、コスト競争力を高め、NECとお客様の両方が満足できる製品を出していきます。NECは、電気自動車用急速充電器や充電システムも含めたエネルギー関連事業の拡大に取り組んでまいります。

Q

2011年度の配当見通しはどうなっていますか。

A 中間配当については、上期の利益状況の見込みなどに鑑み、誠に遺憾ながら見送りとさせていただくことといたしました。

期末配当については、現時点で未定とさせていただいておりますが、年間での連結当期純損益の黒字化を予想しています。引き続き、この公表値の達成と復配に向けて努力してまいります。